

評価項目のスコア及びその判断基準の比較

		大		中		小		斜体：現在審議中												
		○牛豚フルオロキノロンNo. 2		サルモネラ		カンピロバクター		○豚ツラソロマイシンNo. 4		○牛ビリマイシンNo. 5		○鶏フルオロキノロンNo. 11		○牛ガミスロマイシンNo. 13		○牛豚セフトオゾノNo. 15				
評価段階	判断項目	判断根拠	評価結果	判断根拠	評価結果	判断根拠	評価結果	判断根拠	評価結果	判断根拠	評価結果	判断根拠	評価結果	判断根拠	評価結果	判断根拠	評価結果			
発生	遺伝的特性	中：伝達性耐性遺伝子の存在	低度 (1)	中：伝達性耐性遺伝子の存在	低度 (1)	中：1か所の変異で耐性獲得 伝達性耐性遺伝子の存在	中等度 (2)	中：一般的な耐性機序は染色体突然変異 耐性株で伝達による arm遺伝子獲得の報告は無く、arm遺伝子保有菌の報告まれ	中等度 (2)	中：一般的な耐性機序は染色体突然変異 耐性株で伝達による arm遺伝子獲得の報告は無く、arm遺伝子保有菌の報告まれ	低度 (1)	大：1か所の変異で耐性獲得 投与で速やかに耐性菌が選択	中等度 (2)	中：伝達性耐性遺伝子の存在	中等度 (2)	中：一般的な耐性機序は染色体突然変異 耐性株で伝達による arm遺伝子獲得の報告は無く、arm遺伝子保有菌の報告まれ	低度 (1)	中：伝達性耐性遺伝子の存在		
	耐性率及び感受性	小：一般大腸菌の耐性率や感受性に大きな変動はない(耐性率0~1.5%(牛)、0~4.1%(豚)) 腸管出血性大腸菌に耐性みられない	低度 (1)	小：耐性率低く、感受性は概ね維持(耐性率0%)	低度 (1)	中：耐性率高く(0~30.3%(牛由来C.jejuni)、0~30.3%(豚由来C.coli))、豚で増加傾向	中等度 (2)	小：牛由来C.jejuniではエリスロマイシン耐性株は分離されないC.coliで少数検出されるが、耐性率の上昇はない	低度 (1)	小：感受性は概ね維持(耐性率0%)	低度 (1)	中：耐性率高く、増加傾向(2007年まで)、2008年以降大きな変動なし	中等度 (2)	中：健康鶏は10% 病鶏由来では20%以上	中等度 (2)	小：牛由来C.jejuniではエリスロマイシン耐性株は分離されないC.coliで少数検出されるが、耐性率の上昇はない	低度 (1)	小：耐性菌があるが、感受性に大きな変動なく、維持 耐性率0~10%(牛)、0~1.7%(豚)		
	その他要因	小：懸念されるものがない	低度 (1)	小：懸念されるものがない	低度 (1)	小：懸念されるものがない	中等度 (2)	小：懸念されるものがない	低度 (1)	小：懸念されるものがない	低度 (1)	中：フルオロキノロンの流通量の約6割が鶏用フルオロキノロン耐性獲得株は鶏体内での定着性上昇、選択圧のない状態で長期に維持	中等度 (2)	中：病鶏で使用実態を反映している可能性	中等度 (2)	小：懸念されるものがない	低度 (1)	小：懸念されるものがない	低度 (1)	
発生	遺伝的特性	腸管出血性大腸菌	低度 (1)	中：伝達性耐性遺伝子の存在	低度 (1)	大：1か所の変異で耐性獲得 伝達性耐性遺伝子の存在 投与で速やかに耐性菌が選択	中等度 (2)	中：一般的な耐性機序は染色体突然変異 arm遺伝子保有菌の報告まれ arm遺伝子は染色体上のMDRGIに存在し、伝達可能	低度 (1)	中：伝達性耐性遺伝子の存在	中等度 (2)	中：伝達性耐性遺伝子の存在	低度 (1)	中：伝達性耐性遺伝子の存在	低度 (1)	中：一般的な耐性機序は染色体突然変異 arm遺伝子保有菌の報告まれ arm遺伝子は染色体上のMDRGIに存在し、伝達可能	低度 (1)	中：伝達性耐性遺伝子の存在	低度 (1)	
	耐性率及び感受性	小：一般大腸菌の耐性率や感受性に大きな変動はない(耐性率0~1.3%(牛)、0~4.1%(豚)) 腸管出血性大腸菌に耐性みられない	低度 (1)	小：耐性率低く、感受性は概ね維持(耐性率0%)	低度 (1)	中：耐性率高く(8.8~42.4%(牛由来C.jejuni)、21.3~55.1%(豚由来C.coli))、豚で増加傾向	中等度 (2)	小：牛由来C.jejuniではエリスロマイシン耐性株は分離されないC.coliで少数検出されるが、耐性率の上昇はない	低度 (1)	小：低感受性菌が輸出(0~21%)、2007年以降は低いレベル	中等度 (2)	小：耐性菌があるが、感受性に大きな変動なく、維持 耐性率0~10%(牛)、0~1.7%(豚)	低度 (1)	小：感受性に大きな変動なし 耐性率0~2.0%(牛)、0~2.8%(豚)	低度 (1)	中：健康家禽は1~4.7% 病鶏由来では2~40%	中等度 (2)	小：牛由来C.jejuniではエリスロマイシン耐性はほとんどみられない 中：豚由来C.coliの耐性率は比較的高く(34~53.8%)	中等度 (2)	小：牛由来C.jejuniではエリスロマイシン耐性はほとんどみられない 中：豚由来C.coliの耐性率は比較的高い(34~53.8%)
	その他要因	小：懸念されるものがない	低度 (1)	小：懸念されるものがない	低度 (1)	小：懸念されるものがない	中等度 (2)	小：懸念されるものがない	低度 (1)	中：飼料添加物として使用	中等度 (2)	小：懸念されるものがない	低度 (1)	中：飼料も使用 使用量とmcr陽性率の関連	低度 (1)	小：懸念されるものがない	中等度 (2)	小：懸念されるものがない	中等度 (2)	
発生	遺伝的特性	腸管出血性大腸菌	低度 (1)	中：伝達性耐性遺伝子の存在	低度 (1)	大：1か所の変異で耐性獲得 伝達性耐性遺伝子の存在 投与で速やかに耐性菌が選択	中等度 (2)	中：一般的な耐性機序は染色体突然変異 arm遺伝子保有菌の報告まれ arm遺伝子は染色体上のMDRGIに存在し、伝達可能	低度 (1)	中：伝達性耐性遺伝子の存在	中等度 (2)	中：伝達性耐性遺伝子の存在	低度 (1)	中：伝達性耐性遺伝子の存在	低度 (1)	中：一般的な耐性機序は染色体突然変異 arm遺伝子保有菌の報告まれ arm遺伝子は染色体上のMDRGIに存在し、伝達可能	低度 (1)	中：伝達性耐性遺伝子の存在	低度 (1)	
	耐性率及び感受性	小：一般大腸菌の耐性率や感受性に大きな変動はない(耐性率0~1.3%(牛)、0~4.1%(豚)) 腸管出血性大腸菌に耐性みられない	低度 (1)	小：耐性率低く、感受性は概ね維持(耐性率0%)	低度 (1)	中：耐性率高く(8.8~42.4%(牛由来C.jejuni)、21.3~55.1%(豚由来C.coli))、豚で増加傾向	中等度 (2)	小：牛由来C.jejuniではエリスロマイシン耐性株は分離されないC.coliで少数検出されるが、耐性率の上昇はない	低度 (1)	小：低感受性菌が輸出(0~21%)、2007年以降は低いレベル	中等度 (2)	小：耐性菌があるが、感受性に大きな変動なく、維持 耐性率0~10%(牛)、0~1.7%(豚)	低度 (1)	小：感受性に大きな変動なし 耐性率0~2.0%(牛)、0~2.8%(豚)	低度 (1)	中：健康家禽は1~4.7% 病鶏由来では2~40%	中等度 (2)	小：牛由来C.jejuniではエリスロマイシン耐性はほとんどみられない 中：豚由来C.coliの耐性率は比較的高い(34~53.8%)	中等度 (2)	小：牛由来C.jejuniではエリスロマイシン耐性はほとんどみられない 中：豚由来C.coliの耐性率は比較的高い(34~53.8%)
	その他要因	小：懸念されるものがない	低度 (1)	小：懸念されるものがない	低度 (1)	小：懸念されるものがない	中等度 (2)	小：懸念されるものがない	低度 (1)	中：飼料添加物として使用	中等度 (2)	小：懸念されるものがない	低度 (1)	中：飼料も使用 使用量とmcr陽性率の関連	低度 (1)	小：懸念されるものがない	中等度 (2)	小：懸念されるものがない	中等度 (2)	

○牛豚鶏マクロライド系(第2版)N ○牛豚硫酸コリスチン(第2版)No. 30

○牛豚鶏ST合剤No. 32

○牛豚フルオロキノロンNo. 33

○牛豚フルオロキノロンNo. 34

特定したハザード		カンピロバクター		大腸菌		サルモネラ		大腸菌		黄色ブドウ球菌		腸管出血性大腸菌		サルモネラ		カンピロバクター		腸管出血性大腸菌		サルモネラ		カンピロバクター				
評価段階	判断項目	判断根拠	評価結果	判断根拠	評価結果	判断根拠	評価結果	判断根拠	評価結果	判断根拠	評価結果	判断根拠	評価結果	判断根拠	評価結果	判断根拠	評価結果	判断根拠	評価結果	判断根拠	評価結果	判断根拠	評価結果			
発生	遺伝的特性	中: 一般的な耐性機序は染色体突然変異伝達性耐性遺伝子が存在するが、保有はまれ	低度(1)	中: <i>mor</i> 保有率低い適応負担あり	低度(1)	中: <i>mor</i> 保有率低い適応負担あり	低度(1)	中: 伝達性耐性遺伝子の存在に伴うS、T耐性選択	中等度(2)	中: 伝達性耐性遺伝子使用に伴うS、T耐性選択	中等度(2)	中: 伝達性耐性遺伝子の存在	低度(1)	大: 1か所の変異で耐性獲得伝達性耐性遺伝子の存在投与で速やかに耐性菌が選択	中等度(2)	中: 2016年以降、耐性率が高いが、大きな上昇はない(31.4~59.8%(牛由来 <i>C. jejuni</i>), 40.0~59.0%(豚由来 <i>C. coli</i>))	中等度(2)	中: 伝達性耐性遺伝子の存在	低度(1)	小: 一般大腸菌の耐性率や感受性に大きな変動はない(耐性率0~1.5%(牛), 0~4.4%(豚))	低度(1)	中: 伝達性耐性遺伝子の存在	低度(1)	大: 1か所の変異で耐性獲得伝達性耐性遺伝子の存在投与で速やかに耐性菌が選択	中等度(2)	中: 2016年以降、耐性率が高いが、大きな上昇はない(31.4~59.8%(牛由来 <i>C. jejuni</i>), 40.0~59.0%(豚由来 <i>C. coli</i>))
	耐性率及び感受性	小: 牛由来 <i>C. jejuni</i> でエリスロマイシン耐性はほとんどみられない 中: 豚由来 <i>C. coli</i> の耐性率は比較的高い(34~53.8%)	低度(1)	小: 健康畜舎1.1~4.6%リスク管理による使用量減により耐性率が上昇する可能性低い	低度(1)	小: 健康畜舎0~16%リスク管理による使用量減により耐性率が上昇する可能性低い	低度(1)	中: 健康畜舎で2~5.3%、健康豚・健康鶏で22~35%	中等度(2)	中: ST耐性率不明LA-MRSAのT耐性率90%以上 ST398分離率は約3~17%	中等度(2)	小: 一般大腸菌の耐性率や感受性に大きな変動はない(耐性率0~1.5%(牛), 0~4.4%(豚))	低度(1)	小: 耐性率低く、感受性は概ね維持(耐性率0~3.3%)	低度(1)	小: 2016年以降、耐性率が高いが、大きな上昇はない(31.4~59.8%(牛由来 <i>C. jejuni</i>), 40.0~59.0%(豚由来 <i>C. coli</i>))	中等度(2)	小: 一般大腸菌の耐性率や感受性に大きな変動はない(耐性率0~1.5%(牛), 0~4.4%(豚))	低度(1)	小: 耐性率低く、感受性は概ね維持(耐性率0~3.3%)	低度(1)	小: 伝達性耐性遺伝子の存在	低度(1)	中: 2016年以降、耐性率が高いが、大きな上昇はない(31.4~59.8%(牛由来 <i>C. jejuni</i>), 40.0~59.0%(豚由来 <i>C. coli</i>))		
	その他要因	小: 牛糞では懸念されるものがない 中: 豚で用量は突出。飼料も豚にのみ使用可能。	低度(1)	小: 飼料の取消し使用総量が概ね半減	低度(1)	小: 飼料の取消し使用総量が概ね半減	低度(1)	中: 使用量約50~76t/年使用量と耐性率の関連有効菌株ではない	中等度(2)	小: 使用量多い(約50~76t/年)使用量と耐性率の関連有効菌株ではない	中等度(2)	小: 懸念されるものがない	低度(1)	小: 懸念されるものがない	低度(1)	小: 懸念されるものがない	中等度(2)	小: 懸念されるものがない	低度(1)	小: 懸念されるものがない	低度(1)	小: 懸念されるものがない	中等度(2)	小: 懸念されるものがない		

○牛豚フルオロキノロンNo. 35

○牛ツラシロマイシンNo. 36

○牛馬豚鶏アミノグリコシドNo. 37

特定したハザード		腸管出血性大腸菌		サルモネラ		カンピロバクター		カンピロバクター		大腸菌		腸球菌		
評価段階	判断項目	判断根拠	評価結果	判断根拠	評価結果	判断根拠	評価結果	判断根拠	評価結果	判断根拠	評価結果	判断根拠	評価結果	
発生	遺伝的特性	中: 伝達性耐性遺伝子の存在	低度(1)	中: 伝達性耐性遺伝子の存在	低度(1)	大: 1か所の変異で耐性獲得伝達性耐性遺伝子の存在投与で速やかに耐性菌が選択	中等度(2)	中: 一般的な耐性機序は染色体突然変異 <i>erm</i> 遺伝子保有菌の報告まれ <i>ermB</i> 遺伝子は染色体上のMDRに存在し、伝達可能	低度(1)	中: 伝達性耐性遺伝子の存在	中等度(2)	中: 伝達性耐性遺伝子の存在	中等度(2)	
	耐性率及び感受性	小: 一般大腸菌の耐性率や感受性に大きな変動はない(耐性率0~1.5%(牛), 0~4.4%(豚))	低度(1)	小: 耐性率低く、感受性は概ね維持(耐性率0~3.3%)	低度(1)	中: 2016年以降、耐性率が高いが、大きな上昇はない(31.4~62.7%(牛由来 <i>C. jejuni</i>), 40.0~59.0%(豚由来 <i>C. coli</i>))	中等度(2)	小: 牛由来 <i>C. jejuni</i> 及び <i>C. coli</i> からエリスロマイシン及びアジシロマイシン体制株が少数検出されるが、耐性率の上昇はない	低度(1)	中: 健康畜由来株の耐性率が90%を超える肉用鶏由来株のKM耐性率は上昇傾向	中等度(2)	中: 健康畜由来株の耐性率が50%を超えるKM及びGMについて2016年度はそれまでと比べて有意に上昇	中等度(2)	
	その他要因	小: 懸念されるものがない	低度(1)	小: 懸念されるものがない	低度(1)	小: 懸念されるものがない	中等度(2)	小: 懸念されるものがない	低度(1)	小: 懸念されるものがない	中等度(2)	小: 販売量の顕著な上昇傾向がない	中等度(2)	小: 販売量の顕著な上昇傾向がない

○牛豚フルオロキノロンNo. 2				○豚ツラシロマイシンNo. 4				○牛ビルリマイシンNo. 5				○鶏フルオロキノロンNo. 11				○牛ガミスロマイシンNo. 13				○牛豚セフトオゾルNo. 15					
特定したハザード		腸管出血性大腸菌		サルモネラ		カンピロバクター		カンピロバクター		カンピロバクター		サルモネラ		カンピロバクター		大腸菌		カンピロバクター		サルモネラ		大腸菌			
ばく露	生物学的特性	中:牛及び豚の腸内常在菌、食肉中で生存可能		中:牛及び豚の腸内常在菌、食肉中で生存可能		中:牛及び豚の腸内常在菌、食肉中で生存可能		中:豚の腸内常在菌、食肉中で生存可能		中:牛の腸内常在菌、食肉中で生存可能		中:鶏の腸内常在菌、食肉中で生存可能		中:鶏の腸内常在菌、食肉中で生存可能		小:食肉中で生存可能 ヒトの腸内細菌叢として定着する可能性は低い		小:牛の腸内常在菌、食肉中で生存可能、冷蔵及び冷凍保存下で徐々に死滅		中:牛及び豚の腸内常在菌、食肉中で生存可能		中:牛及び豚の腸内常在菌、食肉中で生存可能			
	食品汚染状況	小:牛肉及び豚肉の汚染は少なく(0~0.5%)、それらのハザードによる汚染はさらに少ない(耐性率0~2.8%)		低度 (1)		小:牛肉及び豚肉の汚染は少なく(0~5.1%)、それらのハザードによる汚染はさらに少ない(耐性率0~2.8%)		低度 (1)		小:牛肉の汚染は少なく、それらのハザードによる汚染はさらに少ない		低度 (1)		中:牛肉の汚染は少なく、それらのハザードによる汚染はさらに少ない		中等度 (2)		中:大腸菌における陽性率が高く(17~59%)、フルオロキノロン耐性菌の割合が高い(41%)、食肉処理場での検出率がサルモネラ(0~11.4%)より高い		低度 (1)		中:牛肉の汚染は少なく、それらのハザードによる汚染はさらに少ない		無視 (0)	
	その他要因	小:懸念されるものがない		小:懸念されるものがない		小:懸念されるものがない		小:懸念されるものがない		小:懸念されるものがない		小:懸念されるものがない		小:懸念されるものがない		小:懸念されるものがない		小:懸念されるものがない		小:懸念されるものがない		小:懸念されるものがない			

○牛豚フルオロキノロンNo. 16				○牛ツラシロマイシンNo. 17				○豚鶏パーゼンマイシンNo. 19				○牛豚セフトオゾルNo. 20				○牛豚鶏コリスチン(第1版)No. 21				○豚ガミスロマイシンNo. 22				○牛豚鶏マクロライド系No. 24				○牛豚鶏テトラサイクリン系No. 25			
特定したハザード		腸管出血性大腸菌		サルモネラ		カンピロバクター		カンピロバクター		腸球菌		サルモネラ		大腸菌		大腸菌		カンピロバクター		カンピロバクター		カンピロバクター		黄色ブドウ球菌							
ばく露	生物学的特性	中:牛及び豚の腸内常在菌、食肉中で生存可能		中:牛及び豚の腸内常在菌、食肉中で生存可能		中:牛及び豚の腸内常在菌、食肉中で生存可能		小:牛の腸内常在菌、食肉中で生存可能、冷蔵及び冷凍保存下で徐々に死滅		中:豚及び鶏の腸内常在菌、食肉中で生存可能、豚由来ヒトfaeciumが一定期間ヒト腸管に定着し薬剤耐性遺伝子を伝達		中:牛及び豚の腸内常在菌、食肉中で生存可能		中:牛及び豚の腸内常在菌、食肉中で生存可能		中:食肉中で生存可能 mer-1の水平伝播		中:豚の腸内常在菌、食肉中で生存可能		小:牛の腸内常在菌、食肉中で生存可能、冷蔵及び冷凍保存下で徐々に死滅 中:豚鶏の腸内常在菌、食肉中で生存可能		小:食品一腸管定着の可能性低下									
	食品汚染状況	小:牛肉及び豚肉の汚染は少なく(0~0.9%)、それらのハザードによる汚染はさらに少ない(耐性率0~2.8%)		低度 (1)		小:牛肉及び豚肉の汚染は少なく(0~5.1%)、それらのハザードによる汚染はさらに少ない		低度 (1)		小:牛肉の汚染は少なく(陽性率0%)、それらのハザードによる汚染はさらに少ない		無視 (0)		中:豚肉及び豚肉の汚染は少なく(0~4.7%)、それらのハザードによる汚染はさらに少ない		低度 (1)		小:豚性率が高い(58~88%) 耐性率は低い(0~5.8%)		低度 (1)		豚肝臓のC.col陽性率は高く(14.4%)が、耐性率も高い(44.4%)が、C.jejuni陽性率低く(0.6%)、耐性株なし		無視 (0)							
	その他要因	小:懸念されるものがない		小:懸念されるものがない		小:懸念されるものがない		小:懸念されるものがない		小:食肉摂取による耐性菌のヒト腸内定着や、医療環境の汚染、感染症の原因となる可能性低い		小:懸念されるものがない		小:懸念されるものがない		小:懸念されるものがない		小:懸念されるものがない		小:懸念されるものがない		比較的小さい菌数で発症するため、二次汚染に注意が必要 中:牛豚の肝臓の生食の提供は禁止 中:鶏肉は加熱用を生食用として流通・提供しないことを通知		小:一般的な食中毒対策で予防可能							

○牛豚フルオロキノロンNo. 2				○豚ツラソロマイシンNo. 4				○牛ビリリマイシンNo. 5				○鶏フルオロキノロンNo. 11				○牛ガミスロマイシンNo. 13				○牛豚セフトオフルNo. 15			
特定したハザード	腸管出血性大腸菌	サルモネラ	カンピロバクター	カンピロバクター	カンピロバクター	カンピロバクター	カンピロバクター	大腸菌	カンピロバクター	サルモネラ	カンピロバクター	大腸菌	カンピロバクター	サルモネラ	大腸菌								
影響	1かつ推奨薬	大: 1かつ推奨薬	大: 1かつ推奨薬	中: 1だが推奨薬でない	大: 1かつ推奨薬	中: 1かつ推奨薬でない	大: 1かつ推奨薬	中: 1かつ推奨薬でない	大: 1かつ推奨薬	中: 1かつ推奨薬でない	大: 1かつ推奨薬	中: 1かつ推奨薬でない	大: 1かつ推奨薬	中: 1かつ推奨薬でない	大: 1かつ推奨薬								
	疾病の重篤性	大: 発生件数多く、重篤化する可能性がある	大: 発生件数多く、重篤化する可能性がある	中: 発生件数多いが、重篤化する可能性が大きいとは言えない	中: 発生件数多いが、重篤化する可能性が大きいとは言えない	中: 発生件数多いが、重篤化する可能性が大きいとは言えない	中: 発生件数多いが、重篤化する可能性が大きいとは言えない	中: 発生件数多いが、重篤化する可能性が大きいとは言えない	中: 発生件数多いが、重篤化する可能性が大きいとは言えない	中: 発生件数多いが、重篤化する可能性が大きいとは言えない	中: 発生件数多いが、重篤化する可能性が大きいとは言えない	中: 発生件数多いが、重篤化する可能性が大きいとは言えない	中: 発生件数多いが、重篤化する可能性が大きいとは言えない	中: 発生件数多いが、重篤化する可能性が大きいとは言えない	中: 発生件数多いが、重篤化する可能性が大きいとは言えない								
	その他要因	小: 系統の異なる代替薬があり、医療分野における耐性率も低い	小: 系統の異なる代替薬あり	中: 医療分野での耐性率が高い	小: 医療分野での耐性率フルオロキノロンより低い代替薬あり	大: 医療分野でのマクロライド耐性率フルオロキノロンより低い代替薬あり	小: 系統の異なる代替薬あり	中: 医療分野での耐性率が高い	中: 代替薬あり感受性確認前に使用された場合、重篤化する可能性	小: 医療分野での耐性率フルオロキノロンより低い代替薬あり	小: 系統の異なる代替薬あり	中: 代替薬あり感受性確認前に使用された場合、重篤化する可能性	小: 医療分野での耐性率フルオロキノロンより低い代替薬あり	小: 系統の異なる代替薬あり	中: 代替薬あり家畜の関与は不明だが、ヒトで耐性率が近年上昇								

○牛豚フルオロキノロンNo. 16				○牛ツラソロマイシンNo. 17				○豚鶏バージニアマイシンNo. 19				○牛豚セフキムNo. 20				○牛豚鶏コリスチン(第1版)No. 21				○豚ガミスロマイシンNo. 22				○牛豚鶏マクロライド系No. 24				○牛豚鶏テトラサイクリン系No. 25			
特定したハザード	腸管出血性大腸菌	サルモネラ	カンピロバクター	カンピロバクター	腸球菌	サルモネラ	大腸菌	大腸菌	カンピロバクター	カンピロバクター	黄色ブドウ球菌	カンピロバクター	カンピロバクター	黄色ブドウ球菌																	
影響	1かつ推奨薬	大: 1かつ推奨薬	大: 1かつ推奨薬	中: 1だが推奨薬でない	大: 1かつ推奨薬	中: 1ではないが、推奨薬	大: 1かつ推奨薬	大: 1かつ推奨薬	中: 1ではないが、推奨薬	中: 1ではないが、推奨薬	中: 1ではないが、推奨薬	中: 1ではないが、推奨薬	中: 1ではないが、推奨薬	中: 1ではないが、推奨薬																	
	疾病の重篤性	大: 発生件数多く、重篤化する可能性がある	大: 発生件数多く、重篤化する可能性がある	中: 発生件数多いが、重篤化する可能性が大きいとは言えない	中: 発生件数多いが、重篤化する可能性が大きいとは言えない	中: VREの臨床上的影響大発生件数は不明	中: 発生件数不明重篤化する可能性	中: CRE発生件数不明CL耐性獲得で治療難渋化	中: 発生件数多いが、重篤化する可能性が大きいとは言えない	小: 重篤化する可能性が大きいとは言えない発生件数多いが、マクロライド耐性C.jejuniによる発生件数は少ない	中: 発生件数多いが、重篤化する可能性が大きいとは言えない	中: 発生件数多いが、重篤化する可能性が大きいとは言えない	中: 発生件数多いが、重篤化する可能性が大きいとは言えない	中: 発生件数多いが、重篤化する可能性が大きいとは言えない																	
	その他要因	小: 系統の異なる代替薬があり、医療分野における耐性率も低い	小: 系統の異なる代替薬あり	中: 医療分野での耐性率が高い	小: 医療分野での耐性率フルオロキノロンより低い代替薬あり	小: O/D剤剤の実際の使用頻度は低いと推定、代替薬あり	小: 系統の異なる代替薬あり医療分野での耐性率低く維持	中: 代替薬あり家畜の関与は不明だが、ヒトで耐性率が近年上昇	中: CL使用頻度は低いCRE等がmer獲得すると代替薬なし	小: 医療分野での耐性率フルオロキノロンより低い代替薬あり	小: 医療分野での耐性率フルオロキノロンより低い代替薬あり	中: MDRPにmer伝達しないmerは高度耐性付与しない	小: MRSAの高MINO耐性率は減少傾向代替薬が存在	中: MRSAの高MINO耐性率は減少傾向代替薬が存在																	

○牛豚鶏マクロライド系(第2版)				○牛豚硫酸コリスチン(第2版)No. 30				○牛豚鶏ST合剤No. 32				○牛豚フルオロキノロンNo. 33				○牛豚フルオロキノロンNo. 34			
特定したハザード	カンピロバクター	大腸菌	サルモネラ	大腸菌	黄色ブドウ球菌	腸管出血性大腸菌	サルモネラ	カンピロバクター	腸管出血性大腸菌	サルモネラ	カンピロバクター	腸管出血性大腸菌	サルモネラ	カンピロバクター					
影響	1かつ推奨薬	中: 1ではないが、推奨薬	大: 1かつ推奨薬	中: 1ではないが、推奨薬	中: 1ではないが、推奨薬	大: 1かつ推奨薬	大: 1かつ推奨薬	中: 1ではないが、推奨薬	大: 1かつ推奨薬	大: 1かつ推奨薬	中: 1ではないが、推奨薬	大: 1かつ推奨薬	大: 1かつ推奨薬	中: 1ではないが、推奨薬					
	疾病の重篤性	小: 重篤化する可能性が大きいとは言えない発生件数多いが、マクロライド耐性C.jejuniによる発生件数は少ない	中: CRE発生件数不明CL耐性獲得で治療難渋化	大: 重篤化する可能性否定できない	中: 症状多様尿路感染症は腸内定着→泌尿器に上行感染で成立	中: 発生件数多く、重篤化する可能性がある	大: 発生件数多く、重篤化する可能性がある	中: 発生件数多いが、重篤化する可能性が大きいとは言えない	大: 発生件数多く、重篤化する可能性がある	大: 発生件数多く、重篤化する可能性がある	中: 発生件数多いが、重篤化する可能性が大きいとは言えない	大: 発生件数多く、重篤化する可能性がある	大: 発生件数多く、重篤化する可能性がある	中: 発生件数多いが、重篤化する可能性が大きいとは言えない					
	その他要因	小: 医療分野での耐性率フルオロキノロンより低い代替薬あり	中: CL使用頻度は低いCRE等がmer獲得すると代替薬なしMDRPにmer伝達しないmerは高度耐性付与しない	中: CL使用頻度は低いCRE等がmer獲得すると代替薬なしMDRPにmer伝達しないmerは高度耐性付与しない	小: 代替薬ありESBL産生/ST131で50%以上	小: JANIS/OMRSAの耐性率1%未満尿路MRSAで耐性率19.1%代替薬が存在	小: 系統の異なる代替薬あり医療分野における耐性率も低い	中: 医療分野での耐性率が高い	中: 医療分野での耐性率フルオロキノロンより低い代替薬あり	中: 医療分野での耐性率フルオロキノロンより低い代替薬あり	小: 系統の異なる代替薬あり	中: 医療分野での耐性率フルオロキノロンより低い代替薬あり	小: 系統の異なる代替薬あり	中: 医療分野での耐性率フルオロキノロンより低い代替薬あり					

○牛豚フルオロキノロンNo. 35				○牛ツラソロマイシンNo. 36				○牛馬豚鶏アミノグリコシドNo. 37				
特定したハザード	腸管出血性大腸菌	サルモネラ	カンピロバクター	カンピロバクター	大腸菌	腸球菌	腸管出血性大腸菌	サルモネラ	カンピロバクター	腸管出血性大腸菌	サルモネラ	カンピロバクター
影響	1かつ推奨薬	大: 1かつ推奨薬	大: 1かつ推奨薬	中: 1だが推奨薬でない	大: 1かつ推奨薬	小: どちらも非該当	大: 1かつ推奨薬	大: 1かつ推奨薬	中: 1ではないが、推奨薬	大: 1かつ推奨薬	大: 1かつ推奨薬	中: 1ではないが、推奨薬
	疾病の重篤性	大: 発生件数多く、重篤化する可能性がある	大: 発生件数多く、重篤化する可能性がある	中: 発生件数多いが、重篤化する可能性が大きいとは言えない	中: 発生件数多いが、重篤化する可能性が大きいとは言えない	中: 尿路感染症は腸内定着→泌尿器に上行感染で成立	中: 発生件数多く、重篤化する可能性がある	大: 発生件数多く、重篤化する可能性がある	中: 発生件数多いが、重篤化する可能性が大きいとは言えない	中: 発生件数多いが、重篤化する可能性が大きいとは言えない	中: 発生件数多いが、重篤化する可能性が大きいとは言えない	中: 発生件数多いが、重篤化する可能性が大きいとは言えない
	その他要因	小: 系統の異なる代替薬があり、医療分野における耐性率も低い	小: 系統の異なる代替薬あり	中: 医療分野での耐性率が高い	小: 医療分野での耐性率フルオロキノロンより低い代替薬あり	小: 原則その他の抗菌性物質と併用使用代替薬も存在	中: 易感染性患者等において、心内膜炎等の重篤な日和見感染症の原因	小: 医療分野での耐性率フルオロキノロンより低い代替薬あり	小: 系統の異なる代替薬あり	中: 医療分野での耐性率フルオロキノロンより低い代替薬あり	小: 系統の異なる代替薬あり	中: 医療分野での耐性率フルオロキノロンより低い代替薬あり